

特定非営利活動法人でんでん子ども応援隊 設立趣旨書

私たちの活動は、1997年に子育て世代を繋ぎ情報交換することを目的としたミニコミ誌「伝々ニュース」を無料配布したことに始まる。1999年に、情報交換に加えて実際の交流を深めるべく、子育て仲間で支え合いながら、非営利のリサイクルショップ「ほっとステーションでんでん」を開設した。子どもの成長に伴い短期間で不用となる衣類、子育てグッズ等の寄付を募り整理し販売を行った。子育ての情報交換、リサイクル推進、途上国の子どもの支援活動等を通じて、地域の子育てサークルの中でもリーダー的な役割を果たしてきた。

これらの活動を通じてわかったことだが、近年の子育ては昔に比べ、隣近所のつきあいが希薄で人との係わりの少ない環境下で、母親にその役割のほとんどが任されている。親の側では、身近に相談相手がないため必要以上に不安感が強かったり、独りよがりの育児になってしまったりする。その結果、子ども自身の問題として、他者に対する感情に乏しいケースや、成長後のいじめ、学級崩壊、不登校などにも繋がり易い。また、育児環境によるものではなく、発達障害のこどもたちもこの様な問題を抱えていることが社会的に認知されるようになった。

そこで2001年に、任意団体「子ども支援グループでんでん」を設立し、子育て・子ども支援活動を開始した。地元の人材資源を生かし、子どもたちの生きる力を育む寺子屋運営（発達障害児への対応も実施）や文庫活動、ブックスタート受託事業や音話キャラバンによる絵本推進・子育て支援活動。地域のマンパワーを活かすコミュニティー教室運営、児童館、保育園、小学校におけるボランティア活動等を続けてきた。今日では、行政からの理解も得られるようになり、地域における認知度も上がり、子どもに関する施策の検討委員を委嘱されるに至っている。また、区内外の同様な活動団体との連携を強め、子育てしやすいまちづくりとして活動を広げている。

今後、行政による指定管理者制度の拡大に伴い、図書館や児童館等の事業についても受託したいと考えている。そのためには、任意団体ではなく、社会的に信頼性の高い特定非営利活動法人格を取得する必要がある。

若い親は、経験豊かな大人たちに囲まれ、交流するなかで、生きた知恵が伝えられ、安心して子育てができる。子どもと同様に、親自身もその中で多くを学び、成長する。多様な生き方を認め、他尊・自尊感情も育まれるのである。

私たちは、子ども・子育て支援のネットワークをさらに充実させ、今日深刻化している子どもたちを取り囲む心の問題、家族や地域社会の問題に取り組みながら、障害を持った子ども、外国籍の子どもたちの支援をも視野に入れ、子育てしやすいまちづくり、子どもがいきいきと育つ環境づくりを行い、子どもの権利を子ども達に保障できる社会の実現に寄与することを目的として、ここに、特定非営利活動法人でんでん子ども応援隊を設立する。

2007年 5月27日

代表者 住所 東京都北区上十条5丁目25番12号
氏名 豊原 きよみ 印